

2、3日前、インターネットで何気なく次のようなニュースを読みました。

千四百年の歴史をへて総勢40名来日！

黄河太鼓

中国山西省・絳州鼓楽芸術団(上海)

2006年10月18日(水) 18時30分開演

場所 宝山ホール(鹿児島県文化センター)

山西太鼓も日本へ演奏しに来てよかったなあと嬉しく感じました。

上述の「絳州」は山西省の南、いわゆる晋南と言うところにあり、「絳州太鼓」は山西太鼓の代表なのです。

晋南地方は、中華文明の発源地で、伝説の三皇五帝(注1)の古里でもあると言われて来ました。

伝説では昔、黄帝は蚩尤(注2)と戦い、蚩尤は銅の頭をして、石を食べ、空中を走り回る怪物であり、大変強かったので、黄帝はなかなか勝てないでいました。その後、黄帝は奇妙な野獣を手に入れ、その皮を剥いで太鼓に使用すると、太鼓の音は三千八百里まで響き、世間をひどくびっくりさせ、蚩尤は畏れて、とうとう降伏したということです。

1978年に晋南の襄汾陶寺古跡で、四千年前の陶製の、中国最古と見られる太鼓が出土し、太鼓の起源は遠古に遡ることが裏付けられました。研究によれば、太鼓は先ず原始的な崇拜活動の祭儀用具として使われ始め、神を祭ったり、雨乞いをする時、踊りながら太鼓を叩き、その音が神様と交流できると思われていました。後に一般の人間生活でも使用するようになり、人々の喜怒哀楽を表す道具にもなりました。

晋南地方では、今でも、毎年三月の三日、嫁した娘が実家へ帰る風習がありますが、その折、地元の人々は、盛大な太鼓イベントを行います。それは、ずっと

昔、尧王は二人の娘を舜に嫁がせ、毎年三月三日に娘を実家に迎え、四月にまた姑の元へ送るという儀式に始まるものだそうです。

山西太鼓の演奏は、盛大で、何十人、或いは何百人が揃いの衣装で演奏するのが特徴です。二十センチほどの小さな太鼓を、腰に括って叩くものもあれば、直径三メートルもある大きな太鼓を、十人が囲んで叩くというものもあります。



また、楽譜は大変多いのですが、「秦王点兵」(秦王による兵の招集)のような黄河あたりの古い物語に由来する伝統的なものもあれば、「黄河船夫(黄河の船夫)」のような黄河辺りの人々の生活を描くものもあり、また「老鼠娶親(鼠の嫁入り)」のような喜劇的效果

を持つ楽しいものもあります。

山西太鼓音楽の風格は素朴且つ豪快で、黄河の流れの如く勇ましく、春雷の如く人の心を震わせ、天地を動かす気迫があります。それを聞く人々は、誰でもその迫力に感動し、精神を鼓舞させられるに違いないと思います。

私は何回も山西太鼓を鑑賞したことがありますが、山西太鼓音楽は、目、耳、心による、即ち全身で感じられる芸術だと思います。山西太鼓音楽は近年になって、次第に人々に知られ、特に第十一回アジアスポーツ大会開幕式において披露されてから、世間を驚かせ、世界の注目を浴びています。

2003年、晋南「絳州太鼓音楽」は世界無形文化遺産に登録されました。また、2008年の北京オリンピックの開幕式でも、登場する話しが流れているようです。

(注1)三皇五帝：中華民族の伝説中の原始部落首領
伏羲、神農、燧人(三皇)
黄帝、颛顼、帝喾、唐尧、虞舜(五帝)

(注2)蚩尤：伝説の原始部落である九黎部族の首領